

写真右／施工中は
単管の櫓を組んで、
梁を支えている。
写真左／竣工後。
4本の梁が噛み合い、
櫓の支えが
なくても安定する。



母の家

2013年

4本の登り梁が、互いに噛み合うラメラ架構として自立すること、柱のない空間を実現した住宅。その架構を現しにして、建築の構成のダイナミズムを隠蔽せず、物を築く「初源的な情動」を住環境に残すことが意図された。